

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス コーシュリー		
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 17日		～ 令和 7年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 20日		～ 令和 7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員のキャリアが多岐にわたるため、より多角的な視点で子どもを見ることができる。 (保育者、小学校教員、介護施設勤務者、保健の教諭、学生の指導員など)	・他業種という背景のため、バイアスがかかりやすい実態がある。 ・Zoomやyoutube、外部講師との学びを積極的に実施し、研修の機会を大切にしている。	・チームワークを図るため、各職員のよさを本人にもまわりのスタッフにも伝える。 ・会議の中で「傾聴タイム」をとり入れ、互いの思いや考えを“ただひたすら聴く”という取り組みをしている。
2	・支援の型にとらわれず、その日の子どもの状態をよく観察、察知した上で、療育のメニューを臨機応変に変えることができる。	・毎日のケース記録を週の始めに全職員で読み合い、5領域がバランスよく実施されているかを確認する。 ・その子の課題の優先順位を決め、系統性を大切にしている。	・何よりも保護者支援、家庭支援を大切にしている。気になる保護者、家庭のキーパーソンにリマインドのため電話や面談をまめにしていく。
3	・古民家を活用した施設なので、家庭的な環境のもと、子どもや保護者の支援ができる。 (庭での自由遊び、近くの公園でのルールのある遊び、畑での野菜づくり)	・古い施設のため修繕が必要であるが、大家さんの協力を得ながら「安全第一」を心がけている。また、月1回は全職員で環境整備を行っている。 ・近隣の皆さんとつながることを大切にしている。イベントの際は、手作りお菓子の配布などを行っている。	・年間計画をしっかりと立て、継続して実施していくことを心がけている。 ・子どもたちにはけがや事故のないように、日ごろから視覚教材を利用して伝えていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員自身の自己理解と他者理解をより深め、さらなるチームワーク作りに努めていきたい。	・福祉職を志す者は、実は「自分自身の痛み」を抱えつつ仕事をしている実態がある。職員へのカウンセリング、個別の聞き取りをさらに大切にしていく。	・一人一人の職員の持ち味を大切にしつつ、より信頼し合える仲間づくりのために、細かくで大胆な配慮をしていきたい。 (外部講師を定期的に招いて、仕事ぶりをみてもらう)
2	・年齢層、障がいの程度に幅があるため、集団療育の際にトラブルになることがある。	・曜日によって、年齢層、障がいの程度を分けていく。(利用日の再調整) ・「大集団」よりも「小集団」療育に軸足を移し、刺激量をコントロールしていく。	・子どもの担当者はほぼ決めているが、現場の中で起こりそうなトラブルを早めに察知するためにも、常に全体を見るという視点を職員が持てるように声かけをする。
3	・事業所間での連携ができていないので、子どもの状態が安定しないこともある。	・同じ子どもを見ている他事業所や相談事業所との連携を、今まで以上に大切にしていく。	・できるだけ多くの研修に参加していくようにしていく。決まった職員だけではなく、全職員に研修の機会を与えていく。